

# 発展への足固め



成田高校野球部が夏の甲子園大会に出場

「観光と農業のまち」を旗印に船出した新生成田市でしたが、石原貞三市長が病気のため2年5カ月で辞任。昭和31年11月の市長選挙で当選した藤倉武男氏は「健全なる田園観光都市の完成を目指して前市長の諸政策をさらに発展させる」と所信表明し、4期14年にわたる市政をスタートさせました。

## 市内初の保育園を開設

昭和30年5月、永興寺(寺宮)に、市内で初めての保育園、「成田保育園」が開園。当時、市民から強い要望があった児童福祉の向上に大きく貢献しました。

続けて、円通寺(大室)、宗吾堂内に保育園が開園し、児童福祉の充実が図られていきました。

## 成田高校野球部が夏の甲子園へ

昭和30年、成田高校野球部が大活躍。県下に「成高旋風」が吹き荒れました。当時、夏の甲子園大会に出場するためには、県大会を勝ち抜き、南関東大会で優勝する必要がありますがありました。成田高校は、県大会決勝で千葉高校を破り、南関東大会に歩を進め、勢いそのままに数々の強豪校を破り優勝。夏の甲子園大会出場を決めました。市制施行2年目を祝福するような偉業に、市民は大いに盛り上がり

り、壮行会は盛大を極めたこのことです。選手たちは、成田山新勝寺に必勝を祈願し、勇躍して成田を後にしましたが、健闘及ばず2回戦で敗退しました。

## 京成成田駅の新駅舎が完成

昭和33年9月、門前町にふさわしく、和風の趣のある京成成田駅の新駅舎が完成しました。着工は同年4月。成田山新勝寺の参拝月である9月に間に合わせようと、工期約5カ月の突貫工事でした。

## 新市庁舎が完成

市制施行当初の市庁舎は旧成田町役場が使われていましたが、1町6カ村が合併したため手狭であり、庁舎移転と新市庁舎建設の必要性が年々高まっていました。

建設地決定後、木更津航空自衛隊の派遣を要請し、ブルドーザーによる造成工事が行われ、45日間で整地作業が完了しました。

## Narita Chronicle

### 「昭和30～39年の出来事」

- 昭和30年 3月 第1回市議会議員選挙
- 昭和31年11月 市長選挙で藤倉武男氏が当選
- 昭和33年10月 新市庁舎が完成
- 昭和35年 7月 成田山が国鉄(現JR)の周遊指定地(国鉄が指定する観光地)に
- 昭和36年 4月 市役所本庁に業務を一本化
- 昭和37年10月 市内初の鉄筋校舎、成田小学校校舎が完成
- 昭和39年 8月 国鉄成田駅前～薬師堂～成田山門前が一方通行に



公津支所(旧公津村役場)



中郷支所(旧中郷村役場)



遠山支所(旧遠山村役場)



豊住支所(旧豊住村役場)



八生支所(旧八生村役場)



久住支所(旧久住村役場)



新市庁舎を出発する祝賀パレード



和風の趣のある京成成田駅の新駅舎



市内に初めて誕生した保育園、「成田保育園」

### 五輪の聖火が市内をリレー

昭和39年10月10日に開会した東京オリンピック。同年9月7日に沖縄に到着した聖火は全国各地をリレー。10月6日、大勢の市民が歓喜に沸くなか、聖火は市内を通過し、東京に向かいました。

当時の広報紙は、「オレンジ色に輝く聖火は、白煙をなびかせて成田市内8カ所を次々とリレー」(「成田市政だより(昭和39年10月30日号)」)からと伝えています。



大勢の市民に歓迎される聖火リレー

### 「成田のおどり花見」が 県無形民俗文化財に指定

昭和39年4月、「成田のおどり

場が完成しました。

昭和39年7月、南平台に成田工

場が完成しました。

昭和36年9月、市の誘致運動が

功を奏し、エスエス製薬の進出が

決定。

### 市役所本庁に業務を一本化

市制施行と同時に、旧6カ村の村役場には「支所」が置かれ、戸籍・証明・徴税などの業務が行われました。その後、業務内容の検討が重ねられた結果、昭和36年3月31日に廃止。翌日から市役所本庁に業務が一本化されました。

### 新たな工場が進出

昭和30年代、市内の主要な産業は農業であり、また工業の中心は、ようかんを主とする食品工業でした。そのため、新たな雇用の創出には限界があり、市の財政強化を図るためにも工場誘致は不可欠でした。

昭和36年9月、市の誘致運動が功を奏し、エスエス製薬の進出が決定。

昭和36年9月、市の誘致運動が功を奏し、エスエス製薬の進出が決定。